

コラム 25 一八田興一による烏山頭ダムの建設

烏山頭ダムは、台湾南部の嘉南平野の東方の山地にあります。嘉南平野は日本の香川県ほどの大きさで、台湾全体の耕地面積の 6 分の 1 を占める広大な土地であります。降水量は多いが、河川は中央山脈から海岸線まで一気に流れ落ちるため、雨期には荒れ川となり、乾期には川底も干上がる状態で、農業生産もきわめて低水準、不安定でありました。

八田興一は、この嘉南平野に安定した給水施設を建設することによって、この地を台湾の穀倉地帯にできると考え、「嘉南平野開発計画書」を作り上げた。八田が計画したダムは、満水時の貯水量 1 億 5 千万トンで、溪流をせき止めた堰堤は 1600 メートル以上あり、当時世界最新のセミ・ハイドロリック・フィル方式という、石や土を水圧で固め、コンクリート以上の強度を生み出す石積み工法を用いました。

給排水路は総延長 1 万 6 千キロにおよび、これらの完成によって、嘉南平野は台湾最大の穀倉地に変わり、100 万人におよぶ農民が豊かな生活をする事ができました。

このダムを見下ろす北岸に、日本式の墓があり、「八田興一、外代樹之墓」と刻まれています。外代樹（とよき）は八田の夫人であり、八田の死後、夫が心血を注いだ烏山頭ダムの放水口に身を投げて後を追いました。墓の前には作業着姿で腰を下ろし、肩膝を立てた八田の銅像が建っています。墓も銅像も、このダムを造った八田興一を敬愛する地元農民が作ったものです。

時が変わって、1996 年、地元の農民たちと日本人が集まって、墓前で 50 回目の慰霊祭が行われました。そのとき、ダムを見学に来ていた女子高生が次のように話したそうです。「学校の授業でダムを造ったのが日本人だということは聞いて知っていました。しかし、なんという日本人なのか、先生も知らなかったのが興味を持ってここに来ました。説明版を読んで、八田興一技師ということが分かりました。驚いたのはダムができたのが私のおじいさんの時代で、遠い昔に 10 年もかけて、八田興一技師はここに住み着いてダムを完成させたと書いてあります。日本人はすごいと思いました。」

また、八田興一の業績は、元台湾総統・李登輝氏の次の言葉が見事に要約しているといえます。「台湾に寄与した日本人を挙げるとすれば、おそらく日本人の多くはご存じないでしょうが、嘉南大圳（かなんたいしゅう：ダムと用水路等の水利設備全体の呼称）を大正 9 年から 10 年間かけて作り上げた八田興一技師が、いの一番に挙げられるべきでしょう。台湾南部の嘉義から台南まで広がる嘉南平野に、すばらしいダムと大小さまざまな給水路を造り、15 万ヘクター

ル近くの土地を肥沃にし、100万人ほどの農家の暮らしを豊かにした人です。」

2010年2月10日、八田與一の業績をたたえる記念公園の着工式が、台南県官田郷のダム近くにある故居前で行われました。式典には、毛治国・交通相や地元の台南県長などが出席しました。総工費1億台湾元（約2億8千万円）で、2011年の八田與一の命日となる5月8日の開園を目指すといひます。記念公園は、八田與一の故居や建設に参加した日本人技術者の宿舎などを含む約5万1千平方メートルで、廢墟となっている建物を復元し、庭園を整備して当時の関係書物や資料が展示される計画だそうです。